

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

Vol.7 出穂後の管理

平成29年7月26日

編集:郡山市
JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)
NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)
発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761)

次号は9月上旬(刈取適期)

*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります

1 生育状況 ~平年よりやや進んだ生育となっています~

平坦部の「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「天のつぶ」の生育は、7月24日の生育調査で平年並み~やや進んでおり、出穂期は「ひとめぼれ」が8月2日、「天のつぶ」は8月2日、「コシヒカリ」は8月11日前後と見込まれます。

湖南町の「あきたこまち」は幼穂の伸長がやや緩慢で、8月2日前後と見込まれます。

【管内主要品種の生育の目安です】

品種	幼穂形成始期 (月日)	出穂期 (予想月日)	乳熟期 (予想月日)
ひとめぼれ	7月 8日	8月 2日	8月 9~12日
あきたこまち (湖南)	7月 8日	8月 2日	8月 9~12日
天のつぶ	7月 8日	8月 2日	8月 9~12日
コシヒカリ	7月17日	8月11日	8月18~21日

7月24日 生育調査結果

品 種 (調査地点)	年 次	葉 齢	葉 色	幼穂長 (mm)
コシヒカリ (三穂田)	本年	11.6	3.5	11
	平年差	+0.5	-0.3	+4
ひとめぼれ (片 平)	本年	11.7	3.5	134
	平年差	+0.4	+0.3	-16
天のつぶ (三穂田)	本年	11.3	4.5	128
	平年差	+0.2	+0.4	+55
あきたこまち (湖 南)	本年	11.5	2.0	20
	平年差	+0.5	-1.3	-106

※葉色はカラースケール値

※幼穂形成始期:主茎3本の80%以上の幼穂が1mmに達した日

※出穂期:全穂数の約半分が出穂した日

※乳熟期:籾を指で押しつぶすと乳液状の時期

2 出穂期予測 ~水稻の生育状況を把握しましょう~

(1) 出穂期の判定方法

幼穂長による出穂前日数の判定方法は右表のとおりです。出穂期を予測することで、適切な水管理や穂肥の時期、カメムシ防除の適期を判定することができます。出穂期は天候や栽培条件により変化しますので、幼穂長で確認しましょう。

ただし、幼穂長は20mmに達すると急激に伸長し、品種間差も大きくなります。そのため、出穂が近くなったら葉耳間長から出穂期を予測する方が正確な判定を行うことができます。

(2) 出穂5日前以降の追肥(実肥)は、玄米のタンパク質含量が高まり、食味が低下するので行わないで下さい。

・葉耳(ようじ)

稲の稈と葉の境目にある白くてやや厚みのある部分。葉耳があることで、葉が強風にさらされてもちぎれにくくなると考えられています。

・葉耳間長(ようじかんちょう)

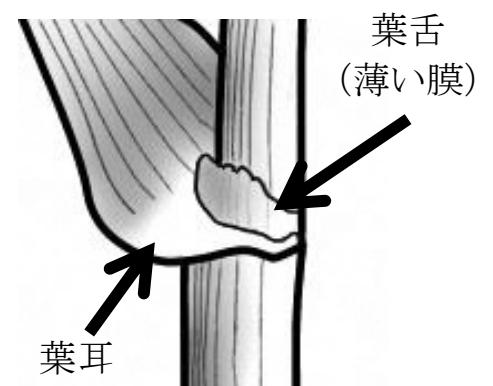
止葉の葉耳とその下の葉の葉耳の間隔。

・葉耳と葉舌(ようぜつ)

稲に特有のものでありヒエには存在しないため、稲とヒエを見分けるためのポイントともなります。

出穂まで日数の判定方法

幼穂長	出穂前日数	備 考
1mm	25日	幼穂形成始期
8-15mm	18日	止葉抽出
80mm	12日	減数分裂期
150mm	8~10日	葉耳間長0cm
205mm	5日	葉耳間長10cm



3 いもち病対策 ～早期防除が効果的～

いもち病が発生してしまったら

- ・ブラシン粉剤DL
(3～4kg/10a、収穫7日前まで) 又は、
- ・ブラシンフロアブル
(1000倍、60～150L/10a、収穫7日前まで)

を散布しましょう。

特に以下の条件が重なる場合は注意して下さい。

- ・平均気温が20～25℃
- ・稲体表面に水滴が8時間以上持続して付着している。

5 カメムシ類対策 ～平年よりやや多い発生となっています～

減数分裂期が低温・寡照に経過すると割れ粃が発生しやすくなり、カメムシ類による被害粒発生の原因となります。

(1) 出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、出穂10日前以降は草刈りを行わないで下さい。

(2) 1回目の防除：粉剤、液剤等による防除は、乳熟期を基本とします。粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。

(3) 追加防除：その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行いましょう。

割れ粃はカメムシによる吸汁を助長します。割れ粃の発生しやすい品種（あきたこまち、天のつぶ）では、出穂20日後頃の追加散布が重要ですので、乳熟期と出穂20日後の2回散布を基本にしましゅう。

おいしいお米とは？ No. 7

防除や草刈り作業に追われ、中干し後の水管理がおろそかになってしまっていないですか？

玄米が登熟する際には、葉に蓄えられた養分が玄米へ移動する「転流」がおきますが、この養分の輸送には多量の水が必要です。

この際に水不足が起きると、デンプンの蓄積がスムーズに行われず玄米の中に隙間が生じるため、白未熟粒が発生し品質を落としてしまいます。

白未熟粒となったお米は内部に隙間が多く、水を余計に吸収してしまうため、軟らかくてべちゃっとした食感になってしまうのです。

充実した玄米の生産のためにも、早期落水は行わないようにしましゅう。

4 水管理 ～早期落水は品質低下の原因となります～

(1) 高温対策：登熟期前半に夜温24℃以上の日が5日以上続くと、白未熟粒（乳白粒等）が発生します。用水に余裕があれば掛け流し灌水、確保が困難な場合は「昼間掛け流しー夜間落水」又は「昼間湛水ー夜間落水」の水管理により効率的に地温を下げるができます。

(2) ぎりぎりまで落水しない：早期落水を行うと未熟粒が増加します。収穫10日前までは根腐れを起こさない程度の飽水管理（溝や足跡に水が残る程度の水管理）を継続しましゅう。詳細は「おいしいお米とは？ No. 7」参照。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR.ジョーカー粉剤DL※ ¹	3～4kg/10a	2回以内	収穫 7日前まで
スタークル粒剤※ ²	3kg/10a	3回以内	
キラップフロアブル	1000～2000倍、 60～200L/10a	2回以内	収穫 14日前まで

※¹蚕に対する毒性の強い農薬です。使用規制地域を確認のうえ使用しましゅう。

※²スタークル剤は粒剤以外の粉剤、液剤10、顆粒水溶剤は飛散リスクがあり、蚕に対する毒性の強い農薬です。使用規制地域を確認のうえ使用しましゅう。

熱中症にご注意！！

汗をかいて体の中の塩分が不足すると筋肉がピクピク痙攣したり、こむら返りが起きやすくなります。

水分と同時に塩分を含む飴やタブレット、梅干しを摂取し、失われた塩分も補給しましゅう。



平成29年産米の全量全袋検査への御理解と御協力をお願い

昨年に引き続き平成29年産米についても販売米、縁故米、くず米等、生産されたすべての玄米を対象として「全量全袋検査」を実施します。JAや米穀出荷業者等で行う検査を受けて安全を確認した上で、米を販売、譲渡、消費されるようお願いしましゅう。

なお、土やゴミ等の異物混入による基準値超過を防ぐため、米の調製作業時は、作業場や乾燥・調製機械の清掃等、異物混入の防止策の徹底をお願いいたしましゅう。

問い合わせ先

郡山市農業政策課 TEL 024-924-2201

県中農林事務所農業振興普及部 TEL 024-935-1310